

火音

冴え冴えとした 月夜に
山と 星々と 湖が 謳う
不香の花が 天から
文^{ふみ}を はこび
暖炉の火が パチツと 語りだす

火活け

馬の吐く 白い息に
うとうとしていた 埋み火が めざめ
薄みどり色の 朝がくる
細い煙が 天に駆けあがり
半月が 白んでいく

琴